

# 日本美術史講義 7 b

2021年秋学期 火曜4限

担当：伊藤 大輔

第2回

# 【注意】

このパワーポイントスライドは、本講義の**受講者専用**です。

許可無く、複製・公開すること、あるいは知り合いや友人へ転送することは**禁じます**。個人の学習のみに使用して下さい。

違反しますと、**作品の所有者、写真の撮影者、写真の出版元等の権利者**とトラブルになる可能性があります。

トラブルを避け、自分の身を守るという観点から、制限にご協力下さい。

# はじめに

これからの講義では、再建前法隆寺の絵画の事例である「**玉虫厨子**」の壁面に描かれた絵画について学びます。

今回は、絵画に入る前に、「**玉虫厨子**」という作品の概要や基本的な事項について学びます。

# ①再建前法隆寺の絵画

## (1) 玉虫厨子

檜材・一部は樟材（請花・反花）

総高 223cm

天平十九年（747）

『法隆寺伽藍縁起并流記資材帳』に、

「宮殿像二具（割註）一具 金泥押出千仏像  
一具 金泥銅像 ）」

とある内の「金泥押出千仏像」の方に相当すると考えられる。



# ①再建前法隆寺の絵画

## (2) 玉虫厨子の主要部位

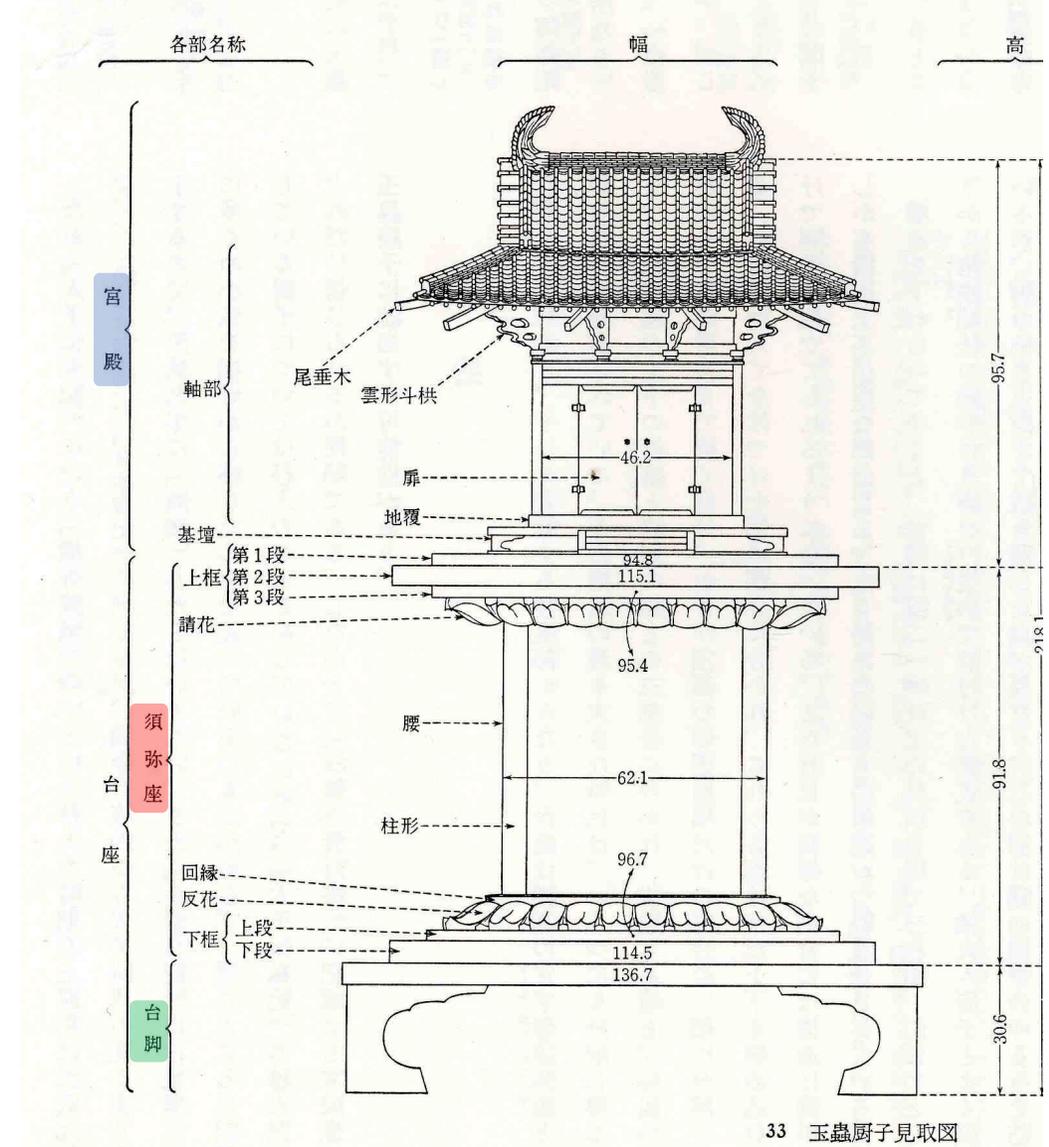
※2箇所の名称を覚えて下さい。

### 1. 宮殿部 (くうでんぶ)

～台座の上に乗った仏殿の模型部分

### 2. 須弥座 (しゅみざ)

～台座の内、台脚を除いた部分

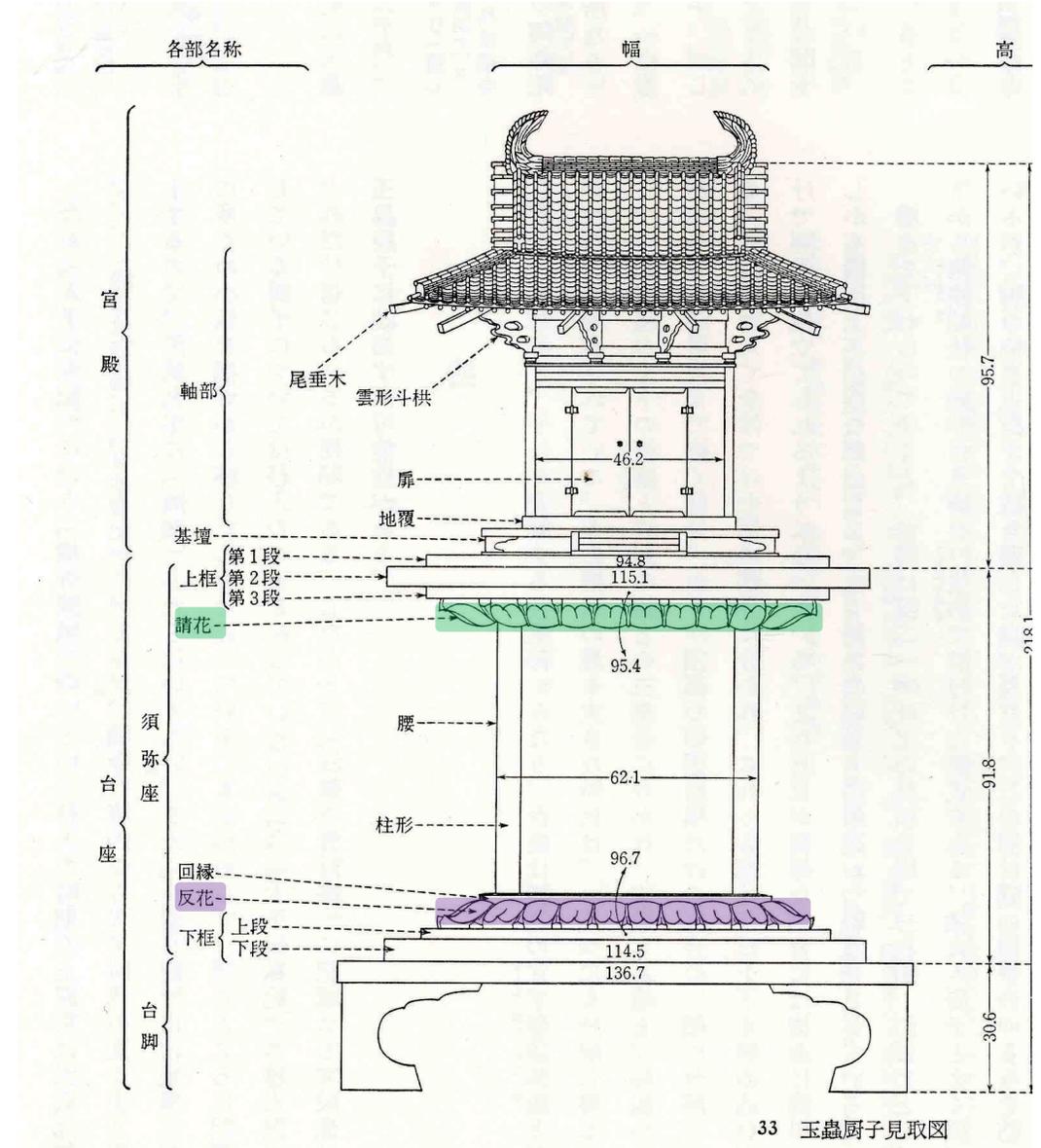


# ①再建前法隆寺の絵画

ちなみに、

須弥座の上下に花びら形の飾り彫刻があり、上を請花（うけばな）、下を反花（かえりばな）と言います。

請花と反花は、樟材（くすのき）が用いられています。



33 玉蟲厨子見取図

# ①再建前法隆寺の絵画

## (3) 玉虫厨子の構造

飛鳥時代には、須弥座に仏像をのせるのが、一般的な安置形式。

厨子の場合は、須弥座に仏像ではなく、仏殿形の宮殿をのせ、台脚をつける。



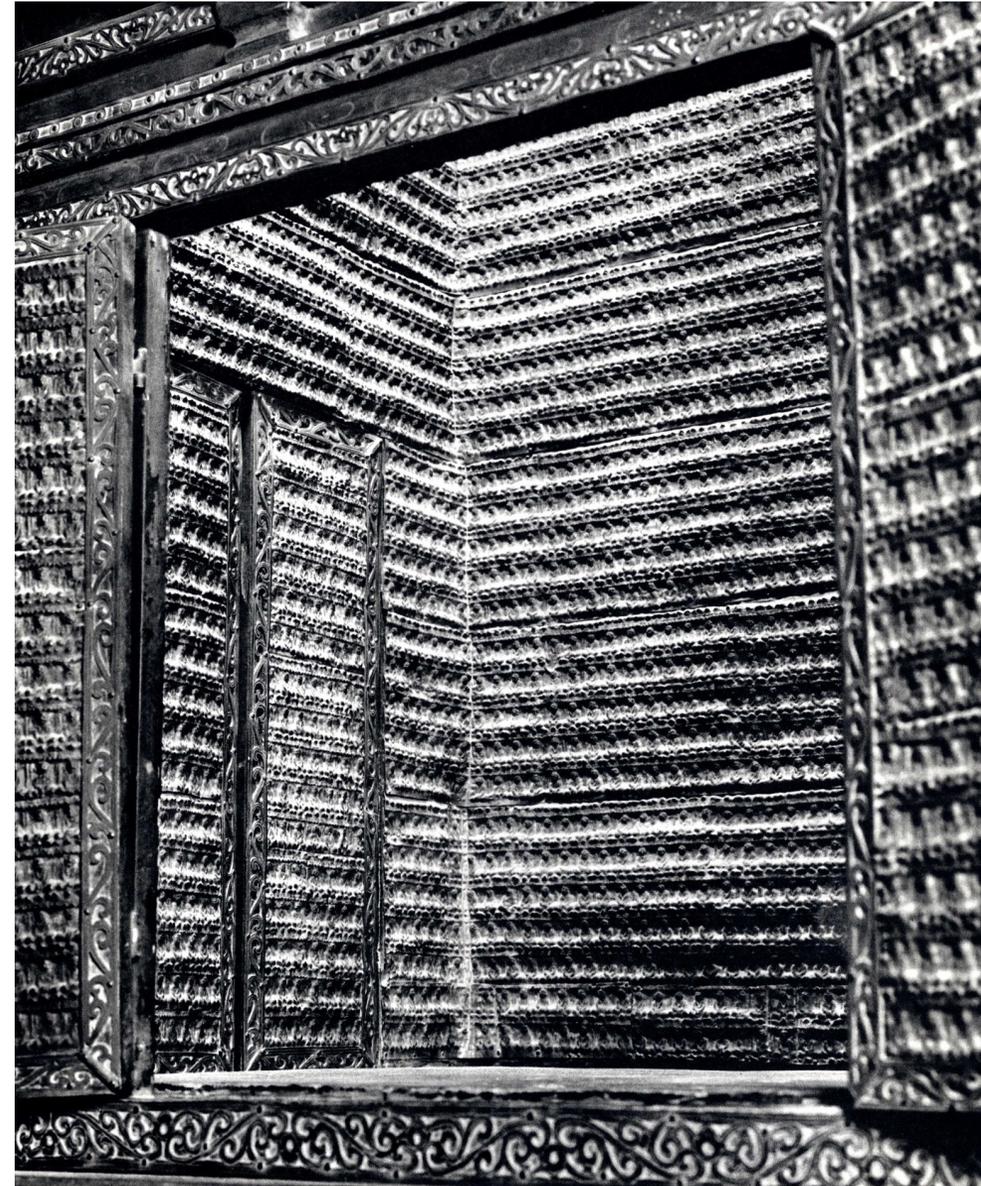
# ①再建前法隆寺の絵画

## (4) 宮殿内の様子

内壁全面に金銅の打ち出しの「**千仏像**」が貼られる。

元来は空間の中央に、釈迦三尊像が本尊として置かれていたと考えられる。

(現在安置される仏は後世の客仏)



# ①再建前法隆寺の絵画

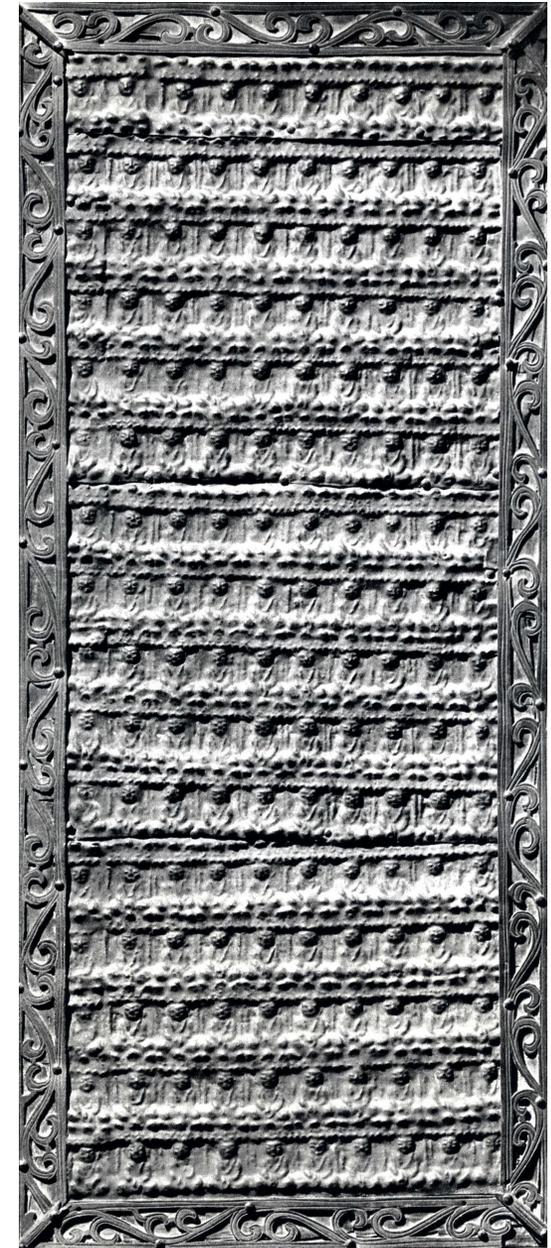
※千仏思想とは

賢劫（現在）に出現した4人の仏と将来出現する弥勒以下996仏を合わせた千の仏で、諸經典に説かれている。

元々は、釈迦が舎衛城の神変において示現させた奇蹟に由来する。

（異教徒の挑戦に応じて、釈迦が仏を次々に噴出させたというエピソード）

後に、過去、現在、未来の各千仏を崇敬する三千仏思想に発展する。平安期になると仏名会の本尊とされる。



# ①再建前法隆寺の絵画

## (5) 玉虫の翅鞘による装飾

玉虫厨子を特徴づける玉虫の翅鞘による装飾は、

5~6世紀の朝鮮半島で流行した装飾手法と推定されている。



六大寺大観 法隆寺5 建築・工芸・絵画 (岩波書店) 奈良六大寺大観刊行会、2001

# ①再建前法隆寺の絵画

金冠塚出土の馬具（障泥＝泥よけ）に玉虫の翅鞞を使った装飾がみられる（部分）。

金冠塚は、5世紀末～6世紀初の新羅王の墓



金冠塚から出土した金冠

金冠塚の景

# ①再建前法隆寺の絵画

皇南大塚出土の馬具（鞍橋の前輪）にも、玉虫の翅鞞を用いた装飾がある。

皇南大塚は、5世紀末頃の新羅王の墓。

図版削除

図版削除

# ①再建前法隆寺の絵画

正倉院宝物にも、玉虫の翅鞘で飾った刀子や弓の箭が伝存し、

日本でも7~8世紀に流行した装飾法であることが分かる。



樺纏把鞘白銀玉虫荘刀子  
かばまきのつかさやしろがねたまむしかざりのとうす  
(正倉院 中倉)



# ①再建前法隆寺の絵画

白葛胡禄 第28号 附属箭

(しろかずらのころく／ふぞくや)

正倉院 中倉

鍔の部分に、玉虫の装飾が施されている。

図版削除

# ①再建前法隆寺の絵画



参考までに、当初の姿を再現したレプリカの画像を掲げておきます。  
宮殿や須弥座に描かれた絵画の色合いなども確認して下さい。

# ①再建前法隆寺の絵画

今回の講義は、単元の区切りの関係でここまでといたします。  
玉虫厨子の全体的な概要と各部名称、装飾の特色などについて確認して下さい。